

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400332		
法人名	ケアサブライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームつつじ		
所在地	群馬県伊勢崎市富塚町208-2		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和5年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでの仕事(テーブル拭き、食器拭き、洗濯物干し、畳みなど)を通しての生活リハビリ、利用者様同士のコミュニケーション作り。リズム運動やテレビ体操、音楽レクリエーション、ボール投げ等を通して、本人の持てる能力の維持に力を入れている。感染対策を十分に行い外部からの慰問や傾聴ボランティアを積極的に受け入れている。毎月楽しめる行事を担当者(職員)を決め実践している。コロナやインフルエンザがこの地域では蔓延している。外出行事も以前のように計画したいが、検討中。利用者様の高齢化、認知症の重度化、体力、機能の低下もあり、コロナが開けたが直ぐには元のように戻れず、今の状況で出来る事を模索して実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人としての重度化対応・終末期ケア対応指針を基に、運営推進会議でも議題に取り上げている。民生委員や管理者が経験に基づいて語り、理解を深める機会としている。看取りを実施した際は、毎日家族が面会に訪れ、自由に付添うことを支援し、最期を看取ることができた。利用者、家族の思いや希望に沿って、管理者、職員が経験を活かしながら実践につなげている。また、利用者がこれまでやってきた馴染みのことを生活の場が変わっても継続できるよう支援している。レクリエーションやイベント、慰問時の演奏会に参加し、ハーモニカを吹くことを楽しみにしている利用者や食器拭きや盛付け、洗濯等の手伝いをする利用者が生き生きと活動できる場面を提供していることが伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の時やホール内に掲示して共有。実践に繋げている。	職員会議で読上げて説明し、理解を深めている。利用者の今ある能力を維持する為、職員と食事の盛付やモップ掛け等の作業を一緒に行い、支援を理念に照らし合わせながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の福祉大の教授や学生たちが定期的に傾聴ボランティアに来ている。ギター慰問も隔月で来苑。地域の行事にもコロナがまだあるので不安はあるが、検討中	町内主催のミニデイに参加し、作品を地域の作品展に出展している。また、地域にある福祉大学の教授、学生が週1回ボランティアに来たり、隔月でハーモニカ演奏の慰問を再開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で出席された民生委員さんと、地域の人々の認知症の方の対応に関しての相談や話し合いを学んできた事を活かした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほとんどのご家族様が出席されている。報告書により説明を行い、質問等に答えている。聞き取った意見はサービスの向上に活かしている。	対面で開催している。家族全員に案内を出し「いつでも出かけてください」と声かけをしている。福祉大学の教授も地域のメンバーとして出席しており、報告事項について具体的な意見を交わしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者は運営推進会議に出席されている。その時々意見を伺っている。日々の中では担当部長が対応している。	法人の部長が窓口となり、市の担当部署への報告、相談等を通して連携を図っている。また、認定調査の立会いや家族から依頼があれば、ケアマネジャーが介護保険の更新代行をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年の8月に入居されたご家族より「玄関のカギを閉めて欲しい」と希望があり、締めている。「自宅でも徘徊があり、困惑していた。」とのこと。時間をかけホームでの生活に慣れれば条件により開錠を考えている。	利用者に徘徊の危険性がある為、家族からの希望により、玄関は施錠している。委員会や勉強会でスピーチロックについては、言い方を学び、職員間で共有し支援に活かしている。	利用者本人も慣れ、友人もできたので様子を見ながら、時間を決め短時間でも良いので玄関を開錠していく方法を検討してはいかがか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員会議において研修を続けている。職員同士でもお互いの言動に注意してケアに勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議において学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改訂の際は十分な時間を設け説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時にご家族より意見を伺っている。もし苦情等があった場合は相談する機関があることも契約時に伝えている。	運営推進会議に毎回4～8名の出席があり、具体的な意見や要望を一人ひとり発言している。利用者との散歩や避難訓練への参加等、面会も頻繁で家族にとって話しやすい関係性ができている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個別面談、気付きシートや業務日報等で意見を聞いている。	毎月職員会議を開き、個別面談の機会も設けている。勤務表は事前に職員の希望を聞いて作成し、家庭事情を他の職員にも分かってもらえるよう努め、職員が働きやすい職場作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるように、細かなことにも注意して聞き取り、本人の労働時間の希望も聴き反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月々の職員会議での研修や個々の実力に合わせてアドバイスをを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの扱いが変わったけれど、この地域では流行が著しくある為、訪問の機会が余り持っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居を決める前後において管理者は本人や家族に希望を聴いているが、職員間の共有は不十分なところもあり、改善に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人やご家族から困っていること、心配な事を、入居相談の時点より聴き、ホームで出来る事を説明。入居後もより良い関係性作りに勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症であること、ホーム内での共同生活もできるかどうか、支援することにより本人らしく生活が送れるか、見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員と一緒に生活上の仕事を行う事により、お互いに感謝の気持ちを表し、関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの相談を聞いたり、本人の状況を定期的に伝えている。家族との繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	直接の面会だけではなく、電話等を利用して繋がりを築き、また、関係性が途切れないように支援している。	面会が自由になり、友人の訪問があった。家族と受診後に自宅で食事をしてくる利用者もいる。在宅時の洗濯干しや洗濯畳み、得意なハーモニカや新聞を読むことの継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好な関係をつくれるように、協力して行う家事仕事やレクリエーションの提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談があれば、退居された利用者様であっても相談に応じている。必要があればこちらからも連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に話を聞いたり、思いに寄り添い表情の観察に努めている。	介護職員がケアマネジャーを兼務しており、日常的に傾聴を心掛け、利用者の様子や会話を通して意向を確認している。家族からは、来園時に日常の様子を伝え、希望等確認して検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報や入居前に利用していたサービスやかかりつけ医からの情報とご本人より傾聴して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施記録、ケア記録やレクリエーション等を通して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療関係者、スタッフとコミュニケーションをとり本人の思いや上手いといった事例などを共有する。カンファレンスを開催、アセスメントを実施、必要なケアプランを作成している。	月に1回モニタリングを実施。介護計画の見直しについては、アセスメント及び担当者会議と共に3か月毎に行われている。また、状態変化時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉や表情等注意深く見守り、実践したケアや工夫した事など共有し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会制限等解除となり外出支援、ボランティアによる慰問等、積極的に取り組んでいく。ご家族に認知症を理解できる機会(講習会等)の情報提供		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園の桜が満開になったら利用者様たちを連れて花見に行きました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の受診前のパット等の用意をします。現在の状況を詳しく分かる言葉で説明します。	入居時にかかりつけ医か協力医の選択ができることを説明し、現在は全員が協力医による年12回の往診がある。脳外科等、専門医への通院は家族が付添い、訪問歯科は8名が契約している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に異状があった場合は速やかに看護師に連絡し分かりやすい言葉で説明し必要な時は写真を撮り送信します。看護師の指示に従っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の手続き、個人情報、実施記録等のコピー、保険証の準備。退院後医師の指示を理解しそれに従います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様が望むその人らしい生活を尊重し入浴できない場合は清拭介助を行います。室内温度、湿度の調整をする。現在の状況を詳しく分かるように早い段階から、ご家族に説明、相談する。終末期である事を医師より説明を受けます。	重度化、終末期の指針がある。入居時に看取りの希望の有無を確認し、段階的に話し合いながら、実施に臨む際は主治医から説明がある。家族の自由な付添い等、思いを察した支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に管理者、看護師に連絡。また、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎月行っている。火災、地震、水害等の訓練も行っている。地域との協力体制は近くのご家族が協力を申し出てくれています。	年2回の避難訓練と毎月自主訓練を実施している。水没地域に該当し、緊急時には事前に法人内の他施設への移動を検討している。米、水、レトルト食品、缶詰等を1ヶ月分使いながら備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	服の交換やパットの交換等は必ず外部から見えないようにプライバシーの保護に努めている。	入浴や排泄時の自尊心、羞恥心に配慮し、利用者同士の相性、レクレーションへの参加等利用者の思いや自由意志を尊重することを心がけ、プライバシー保護を遵守した支援に取り組んでいる。	入浴時等異性介助になる場合は、その都度「私でよいですか」と声かけをし、利用者の了承を得てから介助するよう試みてはいかがか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思の自己決定は見守りながら行ってもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険な事意外は利用者様の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔やヘアセット、着替え等は必ず行っている。その時によって本人の希望も尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	大きいものは小さくしたり、硬いものは柔らかくしたり、準備や片付けを一緒に行っている。	業者から毎日届く食材を利用者の状態に合わせて調理し提供している。利用者が盛付や食器拭きを手伝っている。行事や季節に合わせた食事を担当者が決めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録をしながら支援をしている。タイミングで支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず歯磨き支援。スポンジや歯磨きティッシュも使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人の排泄パターンを理解、職員間で共有、その人に合わせて、誘導やパット交換。自ら車椅子にて行かれる場合は見守りを行っている。	トイレでの排泄を基本としている。実際トイレに行けない3名はおむつを使用し、1名は夜間のみ使用している。自立者は夜間も起きて排泄をし、職員は見守りをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫(ヨーグルト、コーヒーの摂取など)リズム運動等の参加の声掛け、など取り組んでいる。トイレに行く時なるべく歩いていける様支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否があった場合は無理強いせず、時間を空けるなどして、丁寧に入浴を促す声掛けをしている。	入浴する曜日は決めていない。前日に入浴していない場合は声をかけている。一人週2~3回、中には4回入浴する人もいて、利用者の希望に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度等に注意しながら、午前、午後共に1時間程横になっていただいている。(数名の方)疲れた様子が見られたときは都度休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の形状や利用者様が変わった様子が見られたときなど、連携看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな人には何が好きか話を聞いてあげたり、面倒見のいい人には他の利用者様の手伝いをお願いしたりして見守っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナや利用者様の重度化のため、戸外への外出が出来なくなった。現在は通院の外出が多くなっています。又、ご家族が記念日に自宅等へ連れて行って来ています。	日常的にはテラスでの外気浴や近くの公園まで散歩をする等、外の空気を肌で感じられる支援を実践している。その他、通院のための外出や洗濯干しの手伝いで戸外に出ることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買物にはなかなか行けない状況にあり、工夫して少しでもいけるように支援して行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りはとても大切なので支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が日中過ごしていただく場所には観葉植物を置いたり、行事の写真を掲示している。トイレにはマークをつけている。温度管理や照明は都度確認している。	ホールはテーブル、ソファ、テレビ等があり、利用者が集う空間となっており、生活の場として時計やカレンダー、献立がある。思い出の写真や掲示物が四方に見られた。	共用空間は環境の一つになるので、ホールの四方に掲示されている行事の写真等、できれば現在の物を1ヶ所にまとめて掲示してはかがか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お部屋で一人静かに居たい人には何をしているか様子を見に行ったり、無理に皆のところに来てもらわないで、お茶の時にリビングに誘います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にある私物を片付けたり動かさずに本人が好きな様に(使いやすいよう)にしてもらっている。また、混乱しないようにも気を付けている。好きなハーモニカ等も吹いてもらっている。	使い慣れた物を持ち込むよう説明している。テレビや寝具、置時計、筆筒やハンガーラック、家族の写真や本が持込まれ、自分の居場所として過ごしやすいように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る人にはテーブル拭き、食器拭き、洗濯物干し、畳みを行ってもらっている。		